

平成 23 年度 第3回とやま建設フォトコンテスト 入賞作品

第3回とやま建設フォトコンテスト概要

募集時期	平成 23 年 7 月 1 日～9 月 30 日
主 催	(社)富山県建設業協会
後 援	富山県、富山県建産連
応募点数	89 点 入賞作品 8 作品



特選「煌めく大橋」 平野 稔

昨年と同じ大橋の作品をトップにするのは若干抵抗感がありましたが、大橋を快晴の夜に撮影し、夜空には煌めく星の軌跡を、橋脚下方の水面には揺らめく光の映り込みを組み入れた画面構成と、更的確な長時間露出による美しい色調、短レンズを巧く活用した作者の多様な技量に感動しました。



優秀賞（物部門） 「クリスタルな建設現場」 富田 栄人

写真の構図自体は極めてシンプルなのですが、朝夕の暗い時間帯か、夜間撮影のいずれかだと思いますが、若干露出不足に撮影したことで、空と海水面の色彩が暗く落ち込み、白く光る完成間近な新湊大橋をクリスタルなイメージに仕上げた構成がお見事です。また、橋脚の縦線の映り込み効果と、空に浮かんだ優しい白雲により、日中では全く撮れないしっとりとした深みのある色彩に表現され、大橋のクリスタルな美しさが更に強調され、作者独自の計算された作品に仕上げられています。

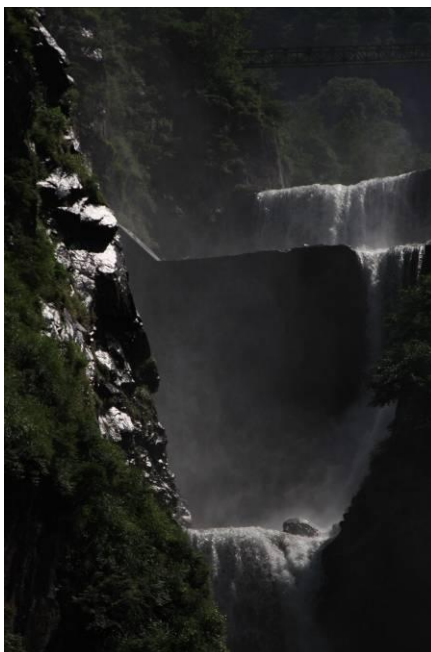


優秀賞（働く人部門） 「電力工事」

福田 隆

山の急斜面に設置された送水管の隣に、資材や作業する人を運ぶトロッキ車の走る仮設線路が作られ、線路は送水管上部に回り込みながら山の緑の斜面側に迂回していく様子を巧く捉えており、線路上を2台のトロッキ車がゆっくり登っていく極めて危険な作業の様子や、画面中央のトロッキ車に乗ろうとしている作業者によって、送水管の太さや現場のスケール感が読み取れま

すし、また、この作品の最大の面白さは、頑丈な送水管と、極めて弱そうなトロッキ道の対比がとてもユニークで面白い。唯一欠点があって、左端の送水管の全体をしっかりと入れて垂直に撮影すればより良かった。



優秀賞（地域部門） 「土石流を防ぐ」

高田孝悦

立山町の湯川谷にある砂防ダムを露出アンダーで切り取った作品ですが、ひとたび大雨が降ると猛烈な暴れ川となる恐怖感の印象が良く表現されており、光を抑えた撮影でモノクローム作品に見えてくると共に、暗黒色に近い谷筋に三段の滝水が優しい水煙を伴って流れ落ちる光景が、とても幻想的な雰囲気仕上げられています。



佳作「鎧」松谷 憲利

橋脚工事の外周側に組まれた足場全体がいかにも鎧に見えたのでしょうか。縦横方向に無数に組み立てられた足場部材の数と、赤い支柱を伸ばしたクレーン車の大きさ、更に左下に見える帆船海王丸の大きさを比較対比すると、橋脚が如何に大きい驚きの構造物であるかが解ると共に、停めてある車や資材がまるでおもちゃに見えてくる面白さがあります。



**佳作「仕事を終え・・・」
高畑 訓**

新幹線工事の構造体の横を走る電車のヘッドライトが点灯していることや、作品全体から夕闇迫る時刻が近く感じられると共に、道路には新幹線工事の関係者なのか、一日の仕事を終えて帰宅する二人の男性の姿が情緒的で面白い。



佳作「新幹線を支える」

澤田 正

新幹線の車両が走る橋梁の鉄筋工事の様子を撮られたものですが、鉄筋を決められた長さや形に整える人、鉄筋を所定位置に運ぶ人、太さや形が異なる多数の鉄筋を組み立てる人、各鉄筋の間隔を決められた間隔に正しく結束する人など、それぞれ役割分担をしている作業の様子が見えてきます。

総評

応募数が昨年より減少したのは残念ですが、上位作品のレベルは遥かに向上していますし、高校の先生方や生徒さんの応募作品もあり、審査員4名で慎重に選考させていただきました。

上位の4作品は、建設され進行していく被写体を作者自身のそれぞれのタイミングで、創意工夫された構図と独自の美的光景をうまく捉えて作品に仕上げている点が共通しており、順位を決めるのにとっても苦労しました。

審査委員長 高橋鐵夫
(富山県写真連盟委員長)



佳作「建設現場」

中山 翔太

橋脚部の外周に足場を組み立て、作業者が書類を見ながら型枠の吊上げ作業を指示している様子を撮ったものですが、青い空と黄色い型枠の動きが色彩的に面白くて、作者はシャッターを切ったものだと思います。この場合、黄色いパネルがもっと上の青空にあるときに撮ればもっとよくなると思います。